

# アンコールワットを訪ねて



”アンコール・ワットの国” カンボジア王国を何となく知っている田舎の紳士・淑女が20人の旅団を組んで正月明けの6日から3泊4日の駆け足旅行をしてきました。

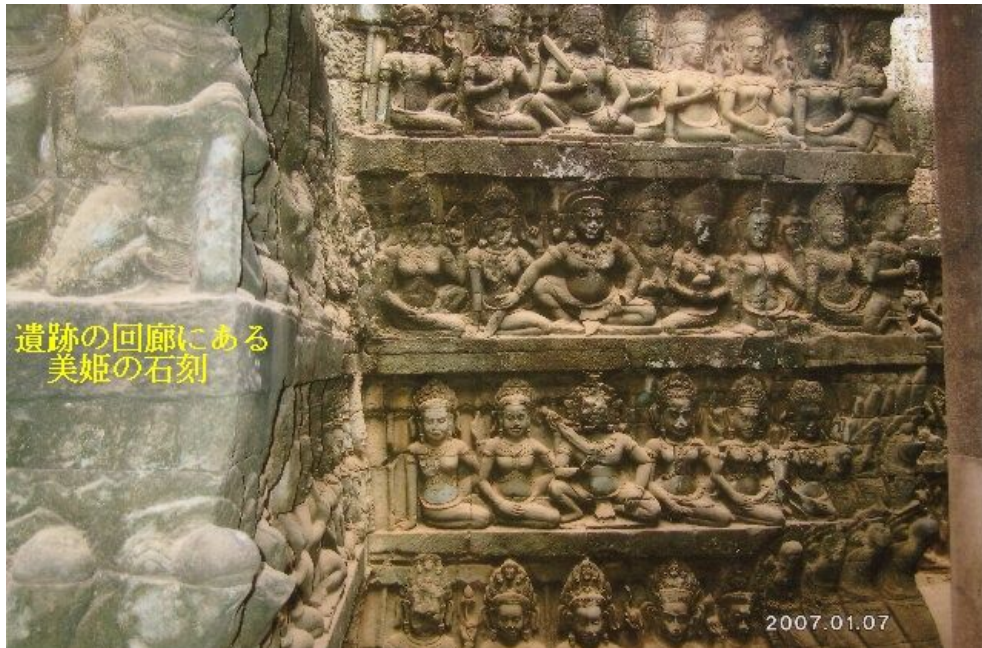
世界遺産にも登録されているアンコール・ワットとアンコール・トムの2大遺跡があるのはシェムリアップというカンボジア第二の都市です。

ジャングルの中、その大伽藍は傷ついた姿でわれわれを迎えてくれました。

仏教とヒンズー教の寺院で、それは日本人にも感動を与える大塔堂群です。建物の壁面にはおびただしい天女の彫刻があり、何ともいえない艶美の世界にいざなってくれます。

極貧のこの国は前世紀末、ベトナム戦争の余波を受け、更にあのポルポト派の大虐殺という悲しい歴史を持っています。その爪跡は処々に見られますが、遺跡は傷つきながらも何とか持ちこたえました。

今、日本を初め各国が大規模な修復作業を進めています。



私達にはもうひとつ、訪問先がありました。倉敷のNPOがアンコール近くに広大な耕地を確保して、井戸を掘ったり、地雷を踏んだ子供達を集めて慈善活動をしている現場を見ることでした。すばらしいプロジェクトに頭が下がる思いでした。隣国にいる高屋さんと遺跡の舞姫に思いを寄せながら帰国しました。

2007年2月5日

水川勝彦 (RSK OB) 記

